

BELIEVE

2023
春号
VOL.84

特集 大阪赤十字看護専門学校閉校



「白い花の記憶・白藤」 秦 美紀子 (エイブルアート・カンパニー所属 <https://www.ableartcom.jp>)

■ シリーズ 情熱の白衣 医師の素顔 ③ 病理診断科部長 桜井 孝規 ■ 看護師レポート

- 食だより／春一旬を味わう「菜の花と筍のパスタ」 ● お薬ミニ知識／お薬を飲み忘れたとき、はどうすればいいの？
- 緩和ケアチーム、からのお知らせ ● かかりつけ医をもちましょ
- 創傷・足病ケアセンターを開設しました ● 外来・入院患者アンケート調査、結果報告 ● Topics Box (ニュース&イベント)

大阪赤十字病院の理念

わたしたちは
人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

患者さんの権利

1. 一人の人間として、人権をまもられる権利があります
2. 良質かつ適切な医療を、公平に受ける権利があります
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利があります
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利があります
5. プライバシーがまもられ、個人情報保護される権利があります
6. 自己の診療録等の医療情報の開示を求める権利があります
7. 他施設の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります



日本医療機能評価機構
認定第 JC885 号



大阪赤十字 看護専門学校閉校

令和5年3月末をもって大阪赤十字看護専門学校が閉校しました。本校の歴史を振り返り、長年にわたりご支援いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

大阪赤十字看護専門学校閉校にあたり



学校長(大阪赤十字病院長) 坂井 義治

令和5年(2023年)3月末をもって大阪赤十字看護専門学校が閉校いたしました。これまでの長い間、本校の運営にご支援、ご協力を賜りました皆さまに本校を代表して心より感謝申し上げます。

看護師養成事業は明治26年(1893年)に日本赤十字社大阪支部が大阪医学校(現在の大阪大学医学部)に委託したことが始まりです。日本赤十字社の地方支部では広島県に次いで2番目でした。明治42年(1909年)に日本赤十字社大阪支部病院(現在の大阪赤十字病院)が設立されたのに併せ「救護看護婦養成所」が開設されました。昭和25年(1950年)に高等看護学院、昭和51年(1976年)に専修学校制度の発足に伴い大阪赤十字看護専門学校と改称し現在に至ります。

第二次世界大戦後、GHQに接収されたときにも大阪市内に分散した医療施設で看護師養成

を継続し、昭和31年(1956年)に病院が返還された翌年に現在地に新校舎が落成されました。これまでに6,527名の卒業生を送り出し、日本の看護教育のリーダーも数多く輩出しています。平成19年(2007年)までは当院の新規採用看護師のほぼ100%が本校の卒業生でした。

近年の加速度的な医学の進歩や医療体制の変化に対応するために、看護教育もより一層高い専門性が求められるようになり、国の方針として大学化が進められてきました。大阪赤十字看護専門学校も大学化へ向けて日本赤十字社の本社、大阪府支部と繰り返し検討してきましたが、実現は困難との結論に至りました。看護師養成事業の輝かしい歴史と伝統が休止することは本当に残念ですが、いつしか社会の強い要請とご支援により大阪に日本赤十字看護大学が設立されることを期待します。



▶コロナ禍の戴帽式

閉校にあたり卒業生としての思い出



副学校長 (大阪赤十字病院副院長 兼 看護部長) 黒岡 多佳子

大阪赤十字看護専門学校は、令和5年3月2日に最後の卒業生を送り出し、114年の看護師養成の歴史に幕を下ろしました。また、3月12日に開催した閉校記念式典では、長きにわたり本校の教育に貢献していただいた方々に感謝をお伝えすることができました。

これまでご支援いただきました地域の皆さまをはじめ、多くの方々に感謝申し上げます。

私はこの学校の卒業生です。昭和54年に入学しました。左上図にありますように、12名のナイチンゲール記章を受賞された諸先輩がおられる歴史ある学校に入学することができ、赤十字の7原則を心身に刻む教育を受けてまいりました。その頃の学校は全寮制で先輩後輩の関係性がとても強く、最終学年の臨地実習では先輩から指導を受けるといふ総合実習がありました。全寮制ですから、指導は深夜に及ぶこともありましたが、今にして思えば懐かしい思い出です。

また、学生主催の文化祭では、その資金集めに近隣の商店(私たちは日赤通りと称していました)を回り、賛助金をいただきました。当時の皆さま、ご協力あ



▲ナイチンゲール記章受章者

りがとうございました。この文化祭には入院中の患者さんや地域の方々にもお越しいただき、健康相談と称して看護学生が血圧測定や生活指導コーナーを設け、実習でお世話になつていらっしゃる患者さんや地域の方々への感謝の思いを込めて交流させていただいたものです。

時代とともに、寮は廃止され文化祭も規模を縮小し、コロナ禍においてはさまざまな学校行事や活動が中止となり閉校を迎えました。少々寂しい幕引きではありましたが、このコロナ禍では、感染拡大で患者さんの入院先が見つからない際、卒業生であるOGの看護師が、何とか一人でも受け入れ先を見つけようとフォロアアップセンターで活動してくださいました。病院を離れても赤十字の心を持ち続ける人々がたくさん地域で生活しています。

この先、また大阪の地で、赤十字の看護師養成をのちの世に受け継いでいくことを願っています。これからも地域住民として諸先輩方のように地域貢献に尽くしてまいります。



当院主催のキャロリングに参加

明治

●10年(1877) 博愛社の創設

政府軍と西郷軍との激しい戦いで多くの負傷者が続出していた西南戦争の最中、「敵味方の区別なく負傷者を救済する」という精神を掲げて「博愛社」を創設。創設には、欧州視察で赤十字社の理念と活動に感銘を受けた初代社長となる佐野常民と、西南戦争負傷者を救護する方策を模索していた大給恒が多いに貢献した

●19年(1886) 博愛社病院の開院

欧州視察に赴いた橋本綱常陸軍軍医監が救護員養成機関としての病院設立を提唱し、博愛社病院が開院

●20年(1887) 日本赤十字社に改称

博愛社は「日本赤十字社」と改称。世界で19番目の赤十字社として正式に認められる

●23年(1890) 看護婦養成の始まり

日本赤十字社は看護婦養成を開始

●24年(1891) 濃尾地震での活躍

被災地での救護活動を通じて赤十字看護婦の活躍が広く知られる

●26年(1893) 大阪で養成開始

全国の支部で看護婦養成が決定。日本赤十字社大阪支部は大阪医学校に看護婦養成を委託

●42年(1909) 大阪支部病院の開院

日本赤十字社大阪支部病院 **1** (右写真、以下同) が開院し、日本赤十字社大阪支部病院救護看護婦養成所 **2** を創設



日本赤十字社大阪支部病院 創設時の正門



日本赤十字社大阪支部病院 救護看護婦養成所(写真は昭和初期)



修恵寮



修恵寮内でのお作法の時間。昭和16年の改正以前の山高帽のナースキャップを着用



病院大改築の様子



病院船



建立を呼びかけた原守蔵院長(昭和26年没)もご本人の希望により、まつられている



木造モルタル校舎



鉄筋校舎が完成

昭和

●8年(1933) 修恵寮の完成

「修恵寮 **3**」が完成。看護生徒は全員入寮し、豊かな人格形成をめざし厳格な教育 **4** を受ける

●11年(1936) 病院大改築

10年間におよび病院大改築 **5** で「東洋一」と称される大病院となる

●12年(1937) 軍病院へ

日華事変勃発。大阪支部病院は軍の管理化へ入り「大阪陸軍病院赤十字病院」へ改称

●15年(1940) 臨時看護師養成

看護婦不足解消のため、3カ月の赤十字教育を施す臨時救護看護婦の養成開始

●16年(1941) 乙種看護師養成

修業年限を2年とする乙種救護看護婦養成も開始。卒業と同時に戦地に赴き病院船 **6** や軍病院で勤務。大阪支部は全国で最も多い1,200人を超える戦時救護員を派遣

●20年(1945) 終戦

病院はGHQに接収され、職員や学生は数箇所に分かれて疎開するが診療と教育は継続

●21年(1946) 法円坂へ移転

法円坂の陸軍兵舎跡を借り受け病院と看護婦養成所を再開

●25年(1950) 大阪赤十字高等看護学院に改称

「大阪赤十字看護学院」より「大阪赤十字高等看護学院」に改称

●26年(1951) 従軍看護婦慰霊供養塔建立

戦地で殉職した大阪赤十字病院の看護婦47名の従軍看護婦慰霊供養塔 **7** を建立

●31年(1956) 筆ヶ崎に病院と学校が復帰

GHQから返還

●32年(1957) 木造モルタル校舎完成

木造モルタル造り平屋建ての校舎 **8** が完成

●49年(1974) 鉄筋校舎・修和寮完成

鉄筋3階建ての新校舎 **9** と学生と看護師の「修和寮」が完成

●51年(1976) 大阪赤十字看護専門学校に改称

「大阪赤十字高等看護学院」より「大阪赤十字看護専門学校」に改称

平成

●9年(1997) 単位制へ

時間制から単位制となり、大学編入が可能となる

●18年(2006) 寮制度の廃止

寮制度が廃止、全員通学生になる

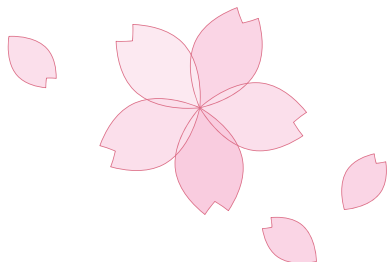
令和

●5年(2023) 閉校

3月末をもって閉校となる



閉校記念式典



「ドクターのためのドクター」、 責任ある病理の仕事が誇りです。

病理診断科部長 桜井孝規

■重要な診断だからこそ、
人に聞く姿勢を大切に。

「小学生のときに憧れたドリトル先生が、人間のお医者さんだったから」。懐かしそうに笑いながら、医者になるきっかけを話す桜井医師。研修医時代には「なんでも診られる村の診療医」をめざし、さまざまな診療科で勉強させてもらったという。ところが、内科医として働き始めた病院に、「病理診断科」が存在しなかったことが、桜井医師の未来を大きく変えた。「病理診断科は、一般の患者さんには馴染みのない科だと思えますが、臨床医が必要だと判断した検査を実行し、病気の有無や原因を見つけ出すのが仕事。いわば、ドクターのためのドクター



「独善的にならないこと」。診断が難しい場合は、若手でもベテランでも、院内でも院外でも、いろんな人の意見を仰ぐ。「二人でやっている」と、なかなか思い込みから逃れられないので。また、自分が疲れているときも、難しい診断を控えるようにしています。

■臨床医の喜びが、
自分のやりがい。

がんを早期に発見したり、身体のだるささまざまな場所が起こる炎症の原因を突き止めたりするなど、患者さんの命や健康を



趣味は地方の鉄道に乗ること。
「江ノ電」もお気に入り。

守るうえで、病理診断が担う役割はとてつもなく大きい。ただし、そのためには、痰や尿を調べる「細胞診」のほか、身体から直に組織を採る「生検」といった検査が必要となる。患者さんへの負担を憂う桜井医師が何よりうれしと感じるのは、検査で得られた確かな答えを臨床医に伝えられたとき。「とても喜んでくれるんですよ、臨床の先生が。患者さんに負担をかけても検査すべき」という判断そのものが、すごく勇気がいることですから。その勇気が、的確な診断が、かけがえのない命を救うことにもつながる。めったに患者さんと接することのない立場だが、「早期がんを見つけた患者さんから、どうしても直接お礼を言いたい」と電話が」という思い出も。「もちろん、患者さんにとって何より重要なのは、検査の結果です。ただ、なぜこの検査をするのかという背景にも、ちょっとだけ思いをめぐらせてもらえるとうれしですね」。桜井医師の診断は、今日も、見えないところで誰かの救いとなっている。

宮崎県出身。平成2年富山医科薬科大学卒業。同大学附属病院および京都桂病院で内科医として務めた後、病理医へ転向。平成19年から平成23年埼玉医大国際医療センターの准教授を務める。以後、大阪府済生会野江病院、京都大学医学部附属病院、関西電力病院などを経て、令和4年10月より現職。

看護師レポート 84

EIKO TANIWAKI

東京都生まれ。平成8年大阪赤十字看護専門学校を卒業し、大阪赤十字病院に入職。救急科、集中治療室をはじめ、産婦人科、脳神経内科、循環器内科、中央手術室、整形外科など、さまざまな部署を経験。平成17年に看護係長へ。令和4年4月より現職。



看護係長 谷脇 永子

たとえ「広く、浅く」でも、 積み重ねた経験が自分の力に。

「初めに一番大変そうなところで、経験を積んでみよう」。他の新人があまり選ばない救急科を希望したのは、そう自分に考えたからです。入職して最初の4年間に、さまざまな患者さんと接することができました。事故によるけが、原因不明の痛み、発作など…。「何もわからないゼロの状態から、対処法を考えて迅速に行動する」という当時の経験は、後に担当するどの診療科でも役立つと感じます。

そんな救急科とは対照的に、「じっくり患者さんに向き合うこと」を学べたのが、次の異動先である一般病棟での日々です。病状が進んで気難しくなるご主人に、最後まで寄り添い続けた奥さま。ご事情があつて、家族に会えないまま旅立っていかれた方。さまざまな「看取り」に立ち会うことで、「私たち看護師も、患者さんというだけでなく、ひとりの人間として向き合いたい」と考えるようになりました。

さらに多くの診療科や、一般病棟の看護師がほとんど知らない手術室も10年近く担当。「万全を期して手術に備える」特別な緊張感を、肌で知ることができました。もちろん、幅広い経験をすればいいというものではありません。継続して同じ診療科でキャリアを積む同僚たちに対して、広く浅く、自分に引け目を感じることも。けれど、師長になった今、どこにいても「あら」と声をかけてもらえるのも、この経歴のおかげだと思えるようになりました。まだまだ尊敬する先輩師長には及びませんが、支えてくれる看護係長さんたちと、みんなが気持ちよく働ける職場をつくっていききたいです。



部活動を
がんばる
子どもたちを
応援するのが
楽しみ。

★新型コロナウイルス感染症対策により、マスク着用での取材とさせていただきます。



食だより

● ● ● 栄養管理課 管理栄養士 光田千穂

春 旬を味わう 「菜の花と筍の Pasta」

新緑の季節となる春先は、この時期にしか食べられない春野菜が多く出回ります。春野菜は寒い冬を耐え抜いているため、ビタミンなどの豊富な栄養素を蓄えています。菜の花、ふきのとう、ニラやタラの芽のように、春野菜特有の「苦味」と「香り」を持っているものが多いことも特徴です。この苦味は「植物性アルカロイド」という成分によるものです。植物が害虫や微生物から



身を守るための微量な毒素の一種で、食用の野菜から食べる程度の量を摂取しても人体には影響がないといわれています。今回のレシピで使用した菜の花も、このほろ苦い風味がシンプルなパスタのアクセントになっています。菜の花は野菜のなかでもトップクラスに豊富なビタミンCに加え、ビタミンB1、B2、カルシウム、鉄分なども含まれており、不足しやすい栄養素をまとめて摂取することができます。春の味覚をぜひお楽しみください。

栄養成分

エネルギー	550kcal
たんぱく質	23.3g
脂質	16.5g
炭水化物	76.8g
食塩相当量	3.2g



- 〈材料〉(1人分)**
- パスタ.....1束(100g)
 - たこ.....30g
 - 菜の花.....50g
 - 筍(水煮).....30g
 - オリーブオイル.....大さじ1
 - んにく.....1片
 - パスタのゆで汁.....50cc
 - 塩.....小さじ1/2
 - こしょう.....適量

- 〈作り方〉**
- 鍋にたっぷりのお湯を沸かし、少量の塩(分量外)を加え、パスタを茹でる。
 - 菜の花、たこ、筍は食べやすい大きさに切る。
 - フライパンにオリーブオイルを引き、みじん切りにしたんにくを入れ弱火で炒める。
 - 菜の花とたこを③に加え、中火でさっと炒める。火が通ったら、筍を加えさらに炒める。
 - ④に湯切りしたパスタとゆで汁を加え、強火で乳化*させる。
※全体がからむようにフライパンをあおると乳化しやすい。
 - 塩、こしょうで味を整えて、完成。

お薬ニ知識



薬剤部 調剤課
犬飼 千智



「お薬を飲み忘れたとき」はどうすればいいの？

お薬は決められた時間に服用することが大切ですが、うっかり飲み忘れてしまうことはありませんか。お薬の飲み忘れに気がついたときは、「すぐに」服用するのが基本的な対応ですが、後述のように飲み忘れたときの対応が異なる場合があります。

服用間隔

お薬の1日服用回数によって、次に服用するまでに空ける時間が異なります。推奨される時間は次のとおりです。ただし、次のお薬を服用する時間が近いときは、1回分のお薬だけを服用しましょう。2回分を服用したからといって2倍の効果期待できるのではなく、副作用が出る可能性が高くなるため、2回分を1度に服用することはやめましょう。

- ① 1日3〜4回飲むお薬の場合.....4時間以上
- ② 1日2回飲むお薬の場合.....5時間以上
- ③ 1日1回飲むお薬の場合.....8時間以上

食事の影響

食事の影響を受けるお薬は、服用のタイミングを守らなければ、十分な効果が得られない場合があります。

- ① 空腹時服用のお薬.....空腹時を守って服用する
バファロード®、ビラノア®など
- ② 食時の前服用のお薬.....次の食事の前に1回分を服用する
グーフィス®、ベイスン®など

服用日が特徴的なお薬

骨粗鬆症のお薬のなかには週1回や月1回、起床時に飲むものがあります。飲み忘れに気がついたときは、翌日の起床時に飲んでください。次回は決められたおりに飲みましょう。次回の服用日が近い場合はお薬によって対応が異なるため、薬剤師に相談してください。

今回説明したお薬以外にも、飲み忘れ時の対応で注意が必要な場合があります。安全なお薬の服用を継続するために薬剤師に確認してください。また、飲み忘れを防ぐために、お薬カレンダーやお薬ケースなどを活用するとよいでしょう。お薬の飲む時間をご自身の生活スタイルに合っていない場合は、医師・薬剤師に相談してください。



“緩和ケアチーム、からのお知らせ”

緩和ケアチーム
薬剤師
有江 宏樹

vol.55

がん全般に関する
さまざまなご相談を
お受けしています。

がん相談支援センター

本館2階1番窓口

TEL:06(6774)5152 FAX:06(6774)5126
syakaika@osaka-med.jrc.or.jp

医療用麻薬ってなに？

麻薬という言葉に抵抗を感じる方もおられると思いますが、医療用麻薬というのは、国の審査を受けて有効性および安全性が確認されているお薬のことです。当院でも、がんなどによる強い痛みに対して医療用麻薬が使われることがしばしばあります。

薬物治療における副作用

副作用が起こる可能性は、すべてのお薬にあります。薬物治療においては、副作用を最小限にし、薬効を最大限に引き出すことがとても重要です。また、必要に応じて副作用を軽減・予防するお薬を併用しながら薬物治療を行うこともあります。

医療用麻薬の特徴的な副作用として、次の3つがあげられます。

- ① 眠気
- ② 吐き気
- ③ 便秘

これらの副作用が必ず起こるといいうわけではありません。眠気や吐き気は、継続的に服用していくうちに症状が落ち着いてきます。吐き気がひどい場合などは、一時的に吐き気止めを併用することがあります。

便秘は高頻度で起こるとされておられ、腹痛や食欲不振などを引き起こし、生活の質を落とすことになるため、対策をとることが重要です。便秘の改善には生活習慣（食事や運動）の改善のほかに、便秘薬を使用します。便秘薬には主に次のようなものがあります。

刺激性下剤

腸を刺激してぜん動運動を引き起こす

- センナ(ヨーデル®)
- セノシド(フルゼニド®)
- ピコスルファートナトリウム(ラキソベロン®) など

【注意】

- お腹が痛くなることがある。
- 長期服用で効果が弱くなる可能性がある。

浸透圧性下剤

腸に水分を集めて便を軟らかくする

- 酸化マグネシウム(マグミット®)

【注意】

- 腎機能が低下している方には注意が必要。
- 他のお薬と相互作用を起こし、効果を減弱させる可能性がある。

その他にも、医療用麻薬の便秘にのみ効果があるナルデメジン(スインプロイク®)や漢方薬、通常とは異なるはたらき方をする便秘薬もあります。便秘でお困りの方は医師、看護師にご相談ください。

お薬は指示通り服用することが大切ですが、便秘薬については下痢になったときは中断するなど症状に合わせて自身で調整を行うことも必要です。医師からの処方薬だけでなくドラッグストアなどでお薬を購入する際は、医師、看護師、薬剤師に調整方法についてもご相談ください。



かかりつけ医をもちましょう

病院と診療所がその機能や役割を分担しながら、患者さんに適切な医療を提供することが求められています。自分のことをよく知っていて、ちょっとした病気やケガの診察や相談ができる「かかりつけ医」をもちましょう。

かかりつけ医

日ごろの健康管理
専門的な治療が
必要なら当院へ紹介

紹介

逆紹介

大阪赤十字病院

高度医療・専門医療
症状が安定したら再び
「かかりつけ医」へ

あか さの赤ちゃんこどもクリニック

- 院長/佐野 博之
- 診療科/小児科
- 住所/大阪市天王寺区清水谷町5-22 3F
- 電話/06-6765-8585
- 診療時間



▲佐野院長

		■休診日/水曜・祝日						
	外来	月	火	水	木	金	土	日
午前	9:00~12:00	○	○	△	○	○	○	○
	13:30~15:30	○	○	△	○	○	○	○
午後	15:30~16:00	☆	☆	△	☆	☆	☆	△
	16:00~19:00	○	○	△	○	○	○	○

○一般小児科診療(予防接種/健診も可) ●予防接種/健診
●アレルギー外来 ●赤ちゃん外来 ☆発達外来 ●発達検査・カウンセリング ▲待合室



▲待合室

特長 令和2年8月に天王寺区(谷町六丁目)ライフ清水谷店の隣のビルの3階で開院しました。新生児医療も専門としていたため、生まれたての赤ちゃんの気になることはもちろん、中高生まで対応可能です。一般小児疾患(感染症・便秘・夜尿など)・アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎など)・発達相談・予防接種・乳児健診も含めて、気軽に来院していただけるような雰囲気づくりを心がけています。日曜日午前中も一般診療およびワクチンを実施しています。

地域の皆さまへ 3つの隔離待合室や業務用空気清浄機・HEPAフィルター付パーテーション・オゾン発生器の設置などで、感染対策をしっかりと実施しています。一般待合室はベビーカーのままでも移動できるように広く設計し、たくさんのディズニーズグッズを飾り、お子さんだけでなくご家族も笑顔になれるような安心できるクリニックであるように心がけています。病院を受診したほうがいいのか悩まれたときなど、気軽にご来院ください。スタッフ一同皆さまに寄り添えるよう努めています。

いりょう ほうじん じょうかい あかがき 医療法人 慈洋会 赤垣クリニック

- 院長/赤垣 洋二
- 診療科/透析、内科、腎臓内科、循環器内科
- 住所/大阪市天王寺区大道1-4-9 大信ビル2F
- 電話/06-6775-1736
- 診療時間



▲赤垣院長

		■休診日/日曜					
	外来	月	火	水	木	金	土
内科外来	9:30~17:00	○	○	○	○	○	○
	8:00~22:30	○	○	○	○	○	○
人工透析	8:00~17:30	○	○	○	○	○	○
		○	○	○	○	○	○

※内科外来:最終受付は16:30 祝祭日も対応
※人工透析:透析治療最終回収は診療終了30分前



▲エントランス

特長 当院は大阪市天王寺区にある人工透析のクリニックです。平成2年の開院以来、「患者様の人生(いのち)に寄り添う医療を提供する」ことを基本理念に30年以上、多くの患者様とともに歩んでまいりました。時代とともに医療および人工透析を取り巻くさまざまなことが変化しています。患者様の生活背景も治療の一環とし、地域の医療機関、介護関連機関と連携を図ることで合併症の早期発見・早期治療、また、在宅医療・生活を支援することでより良い安全で安心な医療を提供できればと考えています。

地域の皆さまへ 当院は人工透析と併せて一般内科・循環器内科、腎疾患の外来診療も行っています。地域の皆さまのお役に立てればという思いから、月曜日～土曜日の9:00～17:00(最終受付16:30)、祝祭日の診療も行っています。患者様のライフスタイルに寄り添いお役に立てれば幸いです。

創傷・足病ケアセンターを開設しました

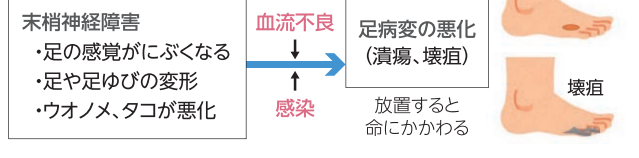


創傷・足病ケアセンター長／形成外科主任部長
内藤 浩

『足病変』とは、足に起こるトラブルの総称です。足の傷のほか、ウオノメやタコ、水虫など、たいしたことはないと考えがちな病変がいつの間にか悪化し、足の壊疽が進むことをご存じでしょうか。

特に糖尿病の方や糖尿病性腎症などにより人工透析を受けている方は、病気の期間が長くなると足の動脈硬化や神経障害、変形で足のトラブルが起こりやすくなります。これらのことを『糖尿病性足病変』といい、足の血流障害を伴う『下肢動脈疾患』による足の傷や壊疽が問題となります。なぜならば、世界中(特にアジア)で糖尿病患者が急激に増加しており、それに伴って透析人口と末梢動脈閉塞人口も増加しているからです。『足病変』が重症化すると壊疽が進行し、足の切断が必要になることもあります。切断する範囲が大きくなるほど歩行が困難となり、時に生命を脅かしかねません。

●足病変のなりゆき

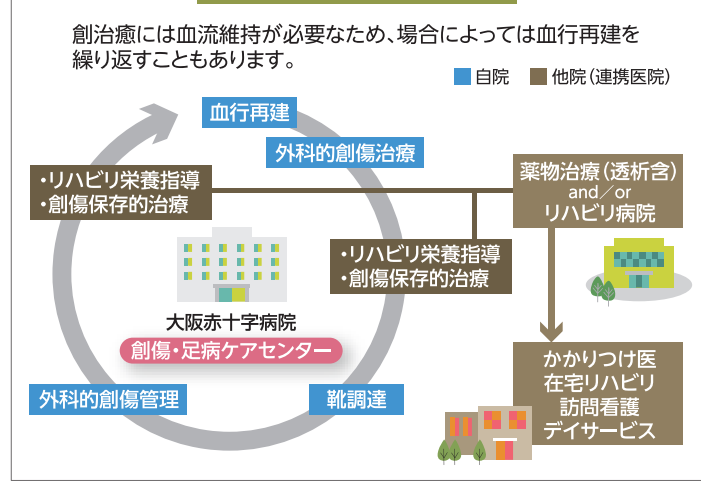


足病変が生じたときに大切なことは、軽症のうちから適切な治療をすることです。当院のように診療科が多い場合は院内外の医療機関でもどこに受診すればよいのか、迷うこともあるかと思いますが、そこで本年、『創傷・足病ケアセンター』を開設しました。ここでは足病変の治療に必要な循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、創傷外科(形成外科皮膚科)や、フットケア、創傷ケアの専門看護師、理学療法士、管理栄養士、義肢装具士など多職種

全体でサポートを行います。糖尿病や動脈硬化、人工透析を受けている方で足の症状がある場合、かかりつけ医を通じて『創傷・足病ケアセンター』にご相談ください。足病変の治療はもとの糖尿病や人工透析のコントロールとともに長期的に管理が必要です。当院の急性期では血管の治療や傷の治療、補装具(特別な靴を作成し、近隣の医療機関や在宅医と連携しています。急性期治療後のリハビリや療養の転院先、在宅医、訪問看護などと連携をとり、安全に地域在宅で生活できるよう初療から在宅支援まで多方面で総合的に最善の医療を提供します。

また、当センターでは足病変以外の難治性創傷、褥瘡についてもチームによるトータルマネジメントを実施していますので、ぜひご相談ください。

足病治療・連携の例



外来・入院患者アンケート調査結果報告

令和4年度患者満足度調査の結果を報告します。たくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

◆調査対象：外来および入院中の患者さん ◆調査期間：令和4年12月12日～16日(5日間)
◆調査方法：アンケート用紙への記入およびウェブ回答 ◆回収率：1,000/1,000件(回収率100%)、入院337/480件(回収率70.2%)
◆各カテゴリーの満足率は、各カテゴリーの合計に対し、「非常に満足」、「満足」と答えた回答数の割合を表示しています。

外来

カテゴリー合計の平均満足率
90.1%
(--- 平均満足率)

総合 **93.0%**

施設・設備など
80.3%

医師の対応
92.8%

看護師の対応
94.3%

その他職員の対応
89.2%

コメディカルの対応 **91.1%**

入院

カテゴリー合計の平均満足率
87.9%
(--- 平均満足率)

総合 **90.4%**

施設・設備など
72.4%

医師の対応
90.5%

看護師の対応
94.6%

その他職員の対応
91.6%

外来・入院ともに総合満足率が90%以上と高評価をいただき、外来に関しては全項目で前年度より高い評価を受けました。入院に関しては全項目で前年度より低い評価となり、特に施設・設備に関しては「Wi-Fiを導入してほしい」、「入院中のシャワー環境を改善してほしい」などのご意見をいただきました。外来・入院における課題は次のとおりです。

- | | | | |
|----|-----------|------------|-------------------|
| 外来 | ①受診時の待ち環境 | ②レストラン再開希望 | ③呼び出し方法を含めた待ち時間対策 |
| 入院 | ①入院時の食事内容 | ②面会希望 | ③Wi-Fiを含めた院内の設備環境 |

★患者総合支援センターでは、対策が必要な課題の問題点を調査し、改善に努め、今後も患者さんに安心していただける病院をめざしてまいります。



大阪赤十字看護専門学校の閉校記念碑が完成しました

大阪赤十字看護専門学校同窓会の寄贈により、令和5年3月をもって閉校となった大阪赤十字看護専門学校の閉校記念碑が病院正面に完成しました。



除幕式

本誌「びり〜ぶ」について 皆さまのお声をお聞かせください

今後も皆さまの声を反映しながら、よりよい情報誌にしていきたいと考えています。ぜひ、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。ご協力をお願いいたします。



アンケート方法
右記のQRコードを
携帯電話で読み取り、
回答後、送信してください



人事異動情報 (令和4年12月31日付～令和5年4月1日付)

▶採用(令和5年1月1日付)【緩和ケア科】西川 信之(非常勤嘱託医師) 【消化器外科】若井 祐人(専攻医) 【眼科】阪田 凌(専攻医) 【脳神経外科】若林 拓也(医師) (1月16日付) 【皮膚科】掛地 由貴人(専攻医) (2月1日付) 【産婦人科】福田 真優(専攻医) (3月1日付) 【皮膚科】武内 直生(専攻医) 【放射線診断科】藤原 裕美子(非常勤嘱託医師) (4月1日付) 【リウマチ・膠原病内科】若下 晶穂(専攻医) 【腎臓内科】石田 裕貴(専攻医) 【血液内科】小藪 助直(専攻医) 【糖尿病・内分泌内科】井村 将大(専攻医) 【消化器内科】橋本 航太(医師) 【小児外科】堀池 正樹(医長) 【心臓血管外科】阪口 仁寿(副部長) 【福嶋 崇志(医師) 【眼科】加登本 伸(医師) 【河合 健太郎(医師) 【産婦人科】岩見 州一郎(副部長) 【泌尿器科】清水 洋祐(副部長) 【畑野 翔太郎(医師) 【林 敏健(専攻医) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】吉村 雅衣(専攻医) 【大江 健吾(非常勤嘱託医師) 【鈴木 千晶(非常勤嘱託医師) 【平川 佳菜(非常勤嘱託医師) 【野々村 万智(非常勤嘱託医師) 【小児科】山道 克樹(専攻医) 【呼吸器内科】伊藤 雅弘(専攻医) 【坂本 裕人(専攻医) 【高橋 祥太(専攻医) 【榛間 智子(専攻医) 【精神神経科】平田 りさ(専攻医) 【整形外科】中嶋 崇貴(医師) 【脳神経外科】岡田 明大(医師) 【川内 豪(医師) 【杉田 義人(医師) 【放射線診断科】日高 啓介(医師) 【藤原 裕美子(専攻医) 【麻酔科・集中治療部】大嶋 圭一(医師) 【木村 佳代(非常勤嘱託医師) 【橋戸 絵梨子(非常勤嘱託医師) 【平 葉月(非常勤嘱託医師) 【濱田 翔央(非常勤嘱託医師) 【三好 健太郎(非常勤嘱託医師) 【百田 裕加(非常勤嘱託医師) 【救急科】宮本 将太(医師) 【臨床検査科】忽那 賢志(非常勤嘱託医師) 【病理診断科】合田 直樹(非常勤嘱託医師) 【宇野 俊輔(非常勤嘱託医師) 【寺本 祐記(非常勤嘱託医師) 【教育研修推進室】鈴木 智之(専攻医) 【臨床研修医】榊井 良太郎/紀谷 拓首/坂田 陽一朗/坂本 周平/高瀬 雄大/谷岡 弘彰/中前 和/西本 尚生/伏見 知紘/三喜田 千裕/山田 拓実/吉田 奈生 【歯科口腔外科・臨床研修医】伊藤 都起子/柴 志穂

▶転入(令和5年1月1日付)【産婦人科】平山 貴裕(医師) (4月1日付) 【血液内科】恩田 佳幸(医長) 【消化器内科】森村 博樹(医師)

▶退職(令和4年12月31日付)【脳神経外科】笹ヶ迫 知紀(医師) 【放射線診断科】福本 元気(医師) 【医療技術部長兼救命救急センター副センター長兼医療技術部長兼管理課長事務取扱】西村 英祥 (令和5年1月20日付) 【救急科】白山 玲奈(専攻医) (2月28日付) 【産婦人科】戸原 隆仁(医長) 【米山 華蓮(医師) 【皮膚科】角南 志保(医師) (3月31日付) 【リウマチ・膠原病内科】妻鹿 旭(非常勤嘱託医師) 【寺前 友樹(専攻医) 【腎臓内科】福島 知穂(専攻医→医師) 【長谷部 雅子(専攻医) 【山岡 諭史(専攻医) 【血液内科】岡田 慎理(専攻医) 【門田 真悠子(専攻医) 【河原 宏紀(専攻医) 【糖尿病・内分泌内科】金井 有吾(医長) 【緒方 康祐(専攻医→医師) 【櫻井 尚(専攻医→医師) 【消化器内科】木村 達(部長→) 【臨床検査科】常勤嘱託医師) 【大江 夏美(医師) 【澤田 賢治(医師) 【安藤 徳晃(専攻医) 【岡井 夏輝(専攻医) 【紙屋 照紀(専攻医→医師) 【藤原 裕也(専攻医) 【三宅 雄大(専攻医) 【循環器内科】稲田 司(主任部長) 【川上 菜里(医師) 【東 彬人(専攻医) 【木村 蓮(専攻医) 【脳神経内科】池田 一俊(医師) 【今村 大智(専攻医) 【王 晨堯(専攻医) 【野村 倫子(専攻医→医師) 【月田 和人(非常勤嘱託医師) 【長谷部 祥子(非常勤嘱託医師) 【本庄 智香(非常勤嘱託医師) 【三宅 智彬(非常勤嘱託医師) 【消化器外科】田中 敬太(医師) 【桂 隆介(専攻医→医師) 【沈 由剛(専攻医) 【小児外科】岩出 珠幾(医長) 【心臓血管外科】石上 雅之助(医長) 【高井 文恵(医長) 【眼科】富田 晃生(医師) 【細田 祥勝(医師) 【非常勤嘱託医師) 【吉田 実世(専攻医) 【高橋 利英(非常勤嘱託医師) 【武蔵 国弘(非常勤嘱託医師) 【産婦人科】福井 希実(専攻医→医師) 【泌尿器科】高橋 雄大(医師) 【平野 昌克(専攻医) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科】大坂 和土(専攻医→医師) 【長田 有華(専攻医) 【安田 大志(専攻医) 【小児科】榊 辰也(専攻医) 【白石 恵(専攻医) 【呼吸器内科】青柳 貴之(医師) 【葭 七海(専攻医) 【貴志 亮太(専攻医) 【宮里 和佳(専攻医→医師) 【藤原 直樹(専攻医) 【呼吸器外科】熊谷 陽介(専攻医) 【川邊 正和(非常勤嘱託医師) 【精神神経科】横本 竜徳(医師) 【整形外科】鈴木 隆(副部長) 【池崎 友美(専攻医) 【桑田 慎也(専攻医) 【中川 祥平(専攻医) 【芳山 貴樹(専攻医→医師) 【脳神経外科】香月 教寿(医長) 【上村 紘也(医師) 【若林 拓也(医師) 【放射線診断科】小嶋 志之(非常勤嘱託医師) 【麻酔科・集中治療部】上田 裕介(副部長) 【関口 貴代(医師) 【非常勤嘱託医師) 【山本 菜都美(医師) 【阪本 主(非常勤嘱託歯科医師) 【佐藤 聖子(非常勤嘱託医師) 【島田 寛生(非常勤嘱託医師) 【濱田 美帆(非常勤嘱託医師) 【留守 信興(非常勤嘱託医師) 【救急科】徳山 裕貴(専攻医) 【臨床検査科】中山 正吾(非常勤嘱託医師) 【山本 英彦(非常勤嘱託医師) 【病理診断科】小谷 健太郎(専攻医) 【伊藤 寛朗(非常勤嘱託医師) 【南口 早智子(非常勤嘱託医師) 【吉澤 明彦(非常勤嘱託医師) 【臨床研修医】青木 一将(→リウマチ・膠原病内科専攻医) 【朝雲 咲(→整形外科専攻医) 【今村 啓明/若本 修平(→腎臓内科専攻医) 【内山 葵(→消化器外科専攻医) 【尾路 絵理香(→小児科専攻医) 【立岡 佑里/中島 諒(→小児科専攻医) 【永澤 佳奈/服部 友哉(→消化器内科専攻医) 【福田 まり(→脳神経内科専攻医) 【藤井 恒輔/山本 衣里奈/吉田 薫(→呼吸器内科専攻医) 【歯科口腔外科・臨床研修医】西原 寛人

ご寄付について 皆さまのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対応に取り組んでいる日本赤十字社に対し、多くの患者さんおよび企業・団体の皆さまから、ご寄付をいただいています。皆さまからの温かいご支援に感謝申し上げますとともに、当院を受診される皆さまのご期待にお応えできますよう、職員一同真摯に職務に励みます。

ご寄付の連絡先 大阪赤十字病院 総務管理課 TEL:06-6774-5111(代表) | ご寄付の方法については、当院ホームページにも掲載しています。 <https://www.osaka-med.jrc.or.jp>

■税制上の優遇措置

日本赤十字社に対してなされた活動資金のご協力は、税制上の優遇措置が受けられます。

個人として資金を拠出された場合

●寄付金の全額(ただし、上限は寄付者の年間所得額の40%)から2千円を差し引いた額が寄付者の年間所得総額から控除されます。(所得税法第78条第2項第3号)

法人として資金を拠出された場合

●特定公益増進法人に対する寄付金の損金算入限度額を損金に算入することができます。(法人税法第37条第4項)

※寄付金損金算入限度額については、法人の資本や所得金額によって異なります。限度額については税務署や税理士の方にご確認ください。

■表彰制度

日本赤十字社では、ご寄付いただいた方・法人に対し下記のとおり感謝状などをお贈りしています。

1.有功章・社長感謝状

- ①事業資金として、一時または累計額で20万円以上を納められたとき → 銀色有功章
- ②事業資金として、一時または累計額で50万円以上を納められたとき → 金色有功章
- ③金色有功章を受章された方がさらに事業資金として、一時または累計額で50万円以上を納められたとき → 社長感謝状

2.支部長表彰状(感謝状)

個人、法人・団体より事業資金として一時または累計額で10万円以上を納められたとき

3.特別社員章

- (個人) 事業資金として、一時または数次に2万円以上納められたとき → 称号付与通知書特別社員章
- (法人) 事業資金として、一時または数次に2万円以上納められたとき → 称号付与通知書

〈備考〉事業資金などを納められた個人、法人・団体には、納入金額に応じて上記の表彰のほか、次の手続きをいたします。

- 厚生労働大臣感謝状(手続きは同年度内1回のみ)
 - 個人の場合 → 一時または同年度内の累計額で100万円以上、500万円未満
 - 法人・団体の場合 → 一時または同年度内の累計額で300万円以上、1,000万円未満
- 紺綬褒章(手続きはその都度)
 - 個人の場合 → 一時または分納の申し出により累計額で500万円以上
 - 法人・団体の場合 → 一時または分納の申し出により累計額で1,000万円以上

※国の表彰については、表彰を代行申請するものであり、ご受章をお約束するものではありません。また、代行申請にあたり別途ご提出いただく書類があります。

病院のご案内

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
 - 初診/月曜日～金曜日 8:30～11:30
 - 再診/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 土・日・祝・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、一部を制限しています。
- 保険証等 保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。



LINE
友だち登録してね



随時配信中!



Instagram
フォローしてね





当院は
敷地内全面
禁煙です

ご理解とご協力を
お願いします。

大阪赤十字病院

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30 令和5年4月発行

■お問い合わせ TEL:06-6774-5111(代表)

大阪赤十字病院 <https://www.osaka-med.jrc.or.jp>
赤十字全般 <https://www.jrc.or.jp>

